



スーパーグローバルハイスクール

発行日

平成28年9月24日

# 中部大学春日丘高校 SGH課題研究 文化祭ポスターセッション

## 国際コース2年個人研究テーマ発表

9月15日、本校で開催された文化祭において、国際コース2年生が現在SGHで進めている個人研究の途中成果を発表しました。大きく4つの領域（国際開発、国際ビジネス、環境・エネルギー、医療・福祉）ごとにグループ分けはしていますが、領域ごとに一人一人異なった個人テーマを設定し、調べ学習をすすめながら論文の執筆も同時に行っています。

生徒たちは夏休み中に、論文の序論に研究の目的と、先行研究との関連における研究の意義をまとめました。現在は課題の原因、歴史的背景を研究し、今後、本論第1章を執筆する予定です。

今回のポスターセッションは、各テーマにおける問題提起、そしてなぜそれが問題であるのかをまとめたものです。

生徒は時間ごとに当番を決め、来場者に自らのポスターの細かな説明をしていました。生徒一人一人様々な視点から問題提起をしているので、新しい発見がたくさん感じ取れるポスターに仕上がっていました。特に写真やグラフなどの視覚にうったえるものが多く、わかりやすくまとめられていたのが非常に印象的でした。

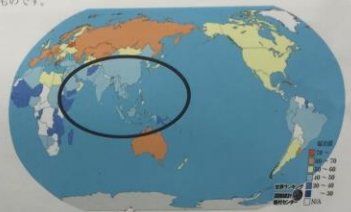


### 国際医療技術協力

東南アジアについて調べていくなかで発展途上国の人々は彼ら自身だけでは解決できない多くの問題を抱えているということを知り、それらの問題の一つとして医療の技術発展の滞りが浮上したのです。その問題はどういったら解決できるかは考えました。私の考えとしてはやはり自分たちの、日本などの先進国が相手国の問題を理解し、寄り添いながら医療技術の発展に協力するというものです。

**<問題点>**

- ① 東南アジアには医師や看護師、専門の知識を持っている人が少ない。
- ② 一先進国で働く医師は（人口10万人に対し）約287人、看護師は約780人  
途上国で働く医師は約76～85人
- ③ 一世界ランキング146カ国中110位<インドネシア>
- ④ 医療サービスの質と量が不十分
- ⑤ 伝統医療、民間医療
- ⑥ 一近代医学が否定され、伝統医療のみを用いている。
- ⑦ 男女とも識字率、数字率が60%前後
- ⑧ 上位病院への患者集中  
支脈をしていく上で途上国の医療の現状を知るべきである。




人口1千人あたりの医師数の偏差値にしたがって、国や地域を色分けした世界地図です。対象となる国または地域の平均と比べて、数値が高い地域はより赤く、数値が低い地域はより青く色分けしています。

**<実際に行われている医療技術支援>**

- ① 南部のホーチミンには、大規模なシミュレーションラボを持つ学校がある。  
一手術室、リカバリールーム、ICU等の設備がある。また、学校内で演習ができるようになっている。この学校には、アメリカの支援が入っていたこともあり、最近では教育機関だけでなく、病院にシミュレーションルームを設置したいということで、救急対応シミュレーションの設置が人気となっており、注目を集めている。
- ② 演習室が設けられている。  
一基礎看護技術各種に必要な消毒、清拭、血圧測定、採血、筋肉注射等の演習に必要な物は揃っていますが、**地方だと数が少ない。**
- ③ 看護技術の実践が中心の病院実習。  
一日本と比べると採血や消毒等、**患者さんに触れる機会がかなり多い。**  
(ア) 日本のように病院看護師が学生の行動を観察しながら学生が実施している場面はあまり見られない。
- ④ 国立国際医療研究センターの病院で研修を行っている。  
一ME（医療機器管理）室や手術室や薬剤部、中央検査部に行き、国立国際医療研究センター病院の中で、どのように医療の質・安全管理体制が働いているのか、実態を見える。

**チョーライ病院**  
1971年から日本政府の無償資金協力で建設された南部ベトナム最大の病院。1992年にやはり日本の援助で改修と機材供与がなされ、1995年から日本が支援する技術協力プロジェクトがはじまった。





ポスターセッションを観て回っている保護者の方々の興味も刺激できたようで、説明役の生徒にいろいろな質問をぶつけていただいたことで、新たな切り口が発見できた生徒も多かったようです。

今回、このような発表機会を得たことで、この先の研究論文にいかしていけるような貴重な体験ができたポスターセッションになったことは非常にうれしいことでした。

### ● 生徒の感想 ●

「自分の研究に関する知識や理解度がないと他人にはうまく伝わらないので、より自分の研究の内容を深められた。」

「観ていただいた人に興味を持っていただいたので、自分の視点が間違っていないことを確認できて安心した。」

## ● 啓明コース2年 研究テーマ発表

啓明コース2年生は、10月に行われるシンガポール研修旅行に向けた研究活動の途中経過を今回の文化祭で発表しました。

国際コースと同じように、大きく4つの領域（国際開発、国際ビジネス、環境・エネルギー、医療・福祉）ごとに合計23のグループに分かれ活動しており、今回のポスターセッションはそれぞれの班ごとに一枚を作成しました。ただし、一人一人異なったテーマを持っていますので、それらを新聞記事のように集めながらも、より見学者に解りやすくするために、と作成するのに少々苦勞はしていましたが、結果的には各班それぞれ趣向を凝らしたものができあがりしました。また、あわせて、一人一人の研究論文のもととなるレポートも展示しました。



ここから更に研究を進めて、10月12日（火）～15（金）にかけて、シンガポール研修旅行に出発し、帰国後に研究論文を仕上げる予定です。